

平成 28 年度 技術情報第 6 号  
ネギ ネギハモグリバエ

平成 28 年 9 月 28 日  
静岡県病虫害防除所長

県西部地域のネギ生産ほ場で、引き続きネギハモグリバエが多発しています。被害の拡大が予想されるため、防除の徹底をお願いします。

## 1 発生状況

- (1) 県西部（浜松市・磐田市）地域のシロネギ生産地における 9 月下旬の巡回調査では、本種の平均被害株率は 63.6%、葉の被害度は 29.3 で平年値（37.2%、13.7）と比べて多発している（表 1）。
- (2) 県内産地の防除員から多発の報告がある。
- (3) 9 月 22 日発表の 1 か月予報では、向こう 1 か月の平均気温が高い確率が 70%、降水量、日照時間は平年並の確率が 40%で、本種の増殖に好適な気象条件である。

## 2 防除方法

- (1) 例年に比べ多発しているため、ほ場の状況をよく確認し、幼虫による食害痕を確認したら防除を実施する。防除薬剤については表 2 を参考にするとともに使用時には必ずラベルを確認し使用基準を遵守する。
- (2) 液剤散布では展着剤を加用し、薬液が根元から葉先まで十分に付着するように、丁寧に散布する。
- (3) 薬剤等の詳細については静岡県農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準 (<http://www.s-boujo.jp>) を確認する。また、不明な点は病虫害防除所、農林事務所、農協等指導機関に問い合わせる。



図 1 ネギハモグリバエ（成虫）



図 2 幼虫による食害痕

表 1 9 月のネギハモグリバエの発生状況

害虫名		寄生株率(%)	葉の被害度
ネギハモグリバエ	本年平均値	63.6	29.3
	平年値	37.2	13.7

調査年月日:平成 28 年 9 月 21 日

県西部(浜松市・磐田市内)10 か所調査 平年値は過去 10 年間の平均値

表2 ネギにおけるネギハモグリバエ・ハモグリバエ類の主な防除薬剤\*

商品名	使用方法	希釈倍数 ・使用量	時期	回数	IRAC** 作用機構分類	系統名
ディアナSC	散布	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	5	スピノシン系殺虫剤
ダントツ水溶剤	散布	2000~4000倍	収穫3日前まで	4回以内	4A	ネオニコチノイド系殺虫剤
ダントツ粒剤	株元散布	3~6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内	4A	ネオニコチノイド系殺虫剤
アルバリン粒剤	株元散布	6~9kg/10a	生育期(但し、収穫3日前まで)	2回以内	4A	ネオニコチノイド系殺虫剤
スタークル粒剤	株元散布	6~9kg/10a	生育期(但し、収穫3日前まで)	2回以内	4A	ネオニコチノイド系殺虫剤
リーフガード顆粒水和剤	散布	1500倍	収穫7日前まで	2回以内	14	ネライストキシン系殺虫剤
カスケード乳剤	散布	4000倍	収穫14日前まで	3回以内	15	昆虫成長制御剤
アルバリン顆粒水溶剤	株元灌注	400倍	生育期(但し、収穫14日前まで)	1回	4A	ネオニコチノイド系殺虫剤
スタークル顆粒水溶剤	株元灌注	400倍	生育期(但し、収穫14日前まで)	1回	4A	ネオニコチノイド系殺虫剤
ダイアジノン乳剤40	散布	1000~2000倍	収穫21日前まで	2回以内	1B	有機リン系殺虫剤

\* 静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準より抜粋

\*\* 世界農薬工業連盟 殺虫剤抵抗性対策委員会 (IRAC) による分類。農薬抵抗性の発達を回避するため、同一コードの薬剤は連用を避ける。

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所（TEL：0538-36-1543）

病害虫防除所 HP（URL）：

<http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujo.html>

病害虫防除基準 HP（URL）：<http://www.s-boujo.jp/>